

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業廃棄物協会

29.10.31までの回答分

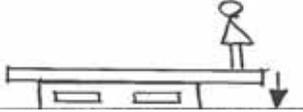
外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	休憩室で	弁当を運んできた際	通路にあった脚立につまづいた。	狭い場所や通路にある脚立は使用後はすぐに片付ける。			○		
2	解体現場	内装解体をしているとき	床に置いてあった道具につまづきそうになった。	常に整理整頓を心がけ、現場をきれいに保つ。			○		
3	解体現場	足場を解体しているとき	4mの管を取り外す際にバランスを崩し、危うく隣の家に倒してしまうところだった。	高所の足場で管を取り外す際は、二人一組で、必ず降ろす物を受け取ってくれる人が来るまで管を外さない。	○				
4	解体現場	バルコニー撤去工事作業中	躯体の腐食が進行しており、解体途中で全体の半分が一気に作業床の上に落下した。	落下防止の為、単管パイプで補強しつつ、少しずつ解体をする。			○		
5	路上(船橋市内)	車の運転をしているとき	生ごみの日に、出されたごみの間から猫が飛び出して来て急ハンドルを切り、電柱にぶつかりそうになった。	とにかく、スピードを出さない。			○		
6	国道376号線	通勤時に自家用車で走行中	国道376号線へ合流する際、右後方から追い越してきたバイクが急に前方の車の前に割り込んできたため、前を走行中の車が急ブレーキを掛け、ヒヤットした。	車線合流で前と左や左後方に注意が集中しがちだが、右側から強引に追い越してくるバイク等がいることもしっかり認識して視野を広げる。朝は思いのほか頭の中が目覚めていないのも考慮して、いつもより長めの車間距離をとるように心掛ける。また、自分自身、寝起きの1時間以内はボンヤリしがちなので、充分に目覚めてから出庫する。		○			
7	船橋市内	通勤中(車にて)	信号のない十字路で停止線で止まり、左から右へ直進する車両を見送っていたら、自車の横側から自転車が止まることなく直進し、左側からの直進車両と衝突しそうになっていた。	どんなときでも周囲を気にして、大丈夫だろうではなく、もしかしたらと安全に気を配って運転を行うようにする。		○			

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	住宅街	徐行で進行中	子供が近寄ってきて、トラックに触ってきた。	住宅街を走行する際は、子供の予測困難な動きにも対処する為、最徐行で走行する。		○			
2	産廃回収の現場内にて	新築戸建の産廃の積込の為、建物奥にある産廃を取りに行こうと何度も現場内を往復しているとき	新設で埋設してあるガス管、水道管につまづいた。	積込前に現場を良く見て、危ない所には目印を置き、安全な動線を確保する。	○		○		
3	東名高速上り東京料金所	料金所のETCレーンに入ろうとしたとき	ETCレーン直前で乗用車が自車の前に急に入ってきた為、接触しそうになり、急ブレーキを踏んだ。	料金所付近は事故が多発しやすいので、速度を落とし、車間も大きく空けて周囲の状況もしっかりと把握する。		○			
4	産廃回収の現場内にて	現場のラフターで積込をしてもらっているとき	ラフターで重量が1t程のフレコンを積んでもらっていたところ、あと2m位の高さまで来たときにワイヤーが外れ、荷台に落下してきた。	ラフターやユニックで積込時は吊り荷の下に入らないこと、地切りできる高さになるまでは、極力触れないようにする。			○		
5	高速道路にて	渋滞もなく、非常に流れの良い高速道を走行中	前車に続き、第1レーンを走行中に前方に落下物があり、前車がそれに気づくのが遅れ急ブレーキを踏んだ為、危うく追突しそうになった。	法定速度と適切な車間確保で前方のいかなる状況もいち早く察知し、危険を回避する。		○	○		
6	高速道路にて	高速道路の第1レーンを走行中	前方を走行しているトレーラーが積んでいたスクラップが荷台から飛んできて、接触しそうになった。	積荷が不安定な車両の後ろは極力走行せず、止むを得ない場合は大きく車間を空け、飛散物が飛んできたとしても回避できるようにする。		○	○		
7	産廃回収の現場内にて	現場の方の誘導に従い、バックで産廃ヤードに着車するとき	バックしている自車の真後ろを、同じ現場の方が車両スレスレで横切っていった。	バック時に誘導者が付いていても、誘導だけに頼ることなく、必ず自身の目で目視確認してバックする習慣を付ける。		○			
8	高速道路にて	事故発生後の規制車線を走行しているとき	事故の当事者の方が本線上を歩いていた。	車線規制は何かがあるか分からないので、最徐行し、不測の事態にも対応できるようにする。		○	○		
9	産廃回収の現場内にて	現場の職人さんに手伝ってもらい、積込作業中	荷を均す為、一時ストップをかけたが、職人さんに伝わっておらず、荷が飛んできて負傷しそうになった。	手伝ってくれる方との意思疎通をしっかりと行い、作業事故の無いように注意する。		○			
10	高速道路にて	高速道の左車線を走行中	高速道の出口約50m先でハザードを出して停車していた車が突然、出口に向かってバックを開始し、高速出口を降りて行った。	不測の事態に対処する為、常に周囲の状況を的確に捉え、安全な速度(法定速度)、車間を確保する。		○			
11	船橋市西船橋周辺	一方通行の道を通っているとき	法定速度20kmの道路で周辺に学校があり、見通しも悪く、子供や車が飛び出すことがある。	法定速度以上出さず、見通しが悪いところや学校周辺は特に徐行すること。			○		
12	東京都江東区内	廃棄物回収場所に向って車両走行中	見通しの悪い、信号のない交差点で一時停止後、ゆっくり発進したところ、横から自転車が飛び出してきた。	見通しの悪い交差点では、今まで以上に「かもしれない」を心掛け、必要に応じて二段停止をした上で徐行を行う。		○	○		
13	取引先工場内	ユニッククレーンにてフレコン入り廃棄物積み込み中	フレコン入り廃棄物を吊り上げて積載する際、フレコンの吊りベルトが劣化しており、廃棄物が落下しそうになった。	荷積みを行う前に、廃棄物容器の状況を確認してから積み込みを行うようにする。また、積み込み時に廃棄物容器損傷が確認された場合は、排出事業者に連絡して荷姿変更依頼などの指示を仰ぐようにする。				○	

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
14	アスファルトガラ排出現場	出っ張ったガラや崩れそうなガラをボデーの上で手平しているとき	足を乗せていた不安定なガラが崩れ、転倒しそうになった。	ガラを手平する場合は、自動シートを上げてボデーの本枠に足をかけて平すようにし、転倒・落下防止に努める。	○				
15	お客様工場内	重量物の搬出作業中	搬出作業時の段差の調整をした際に、敷板の下に何も無い場所に乗りかけ、転倒しそうになった。 	作業前に作業内容と段取り等の打ち合わせを綿密に行う。				○	
16	東関東自動車道習志野バリア	ETCゲートを通過するとき	前車がETCゲートを通過する際にゲートが開かず、急停車してしまった。	急ブレーキをかける事は無かったが徐行運転と車間距離を確保することは重要だと改めて認識しました。		○			
17	処分場敷地内	荷卸し作業中	誘導員にサイドあおりを開ける様に指示され、積載物が崩れるので車両から離れるように依頼したが、「大丈夫だから開ける」と言われ、あおりを開放したところ荷崩れが発生し、誘導員に廃棄物が接触しそうになった。	処分場の誘導員の指示でも「危険な状態」が予測される場合は、身の安全を優先させる。		○			
18		生ゴミ庫で生ゴミを積んでいるとき	生ゴミを持った状態で、足を滑らせて転びそうになった。	足場の確認と、無理なゴミの積込は避ける。			○		
19		パッカー車で廃プラ積み込み作業中	ビニール廃プラを積み込み中に廃棄物が作業服袖口ボタンに引っ掛かり、パッカー車に巻き込まれそうになったので、慌ててストップボタンを押した。	袖口のボタンをしっかりと止めて作業をする。	○				

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	工場内選別ヤード	混合入りのフレコンバッグを重機で開ける際	フレコンバッグから直径20cmぐらいの塩ビ管が落ち、跳ねて人に当たりそうになった。	①フレコンを開ける際は、中身を目視確認し、周りに注意喚起する。 ②フレコンを開ける際は近寄らない。			○		○
2	炉室最上階にて	炉の冷却水切り替え時、排気管より冷却水が噴出する調査を見ていたとき	想定以上に冷却水が噴出し、冷却水を浴びた。	十分な距離を取り、想定以上の事象が起こった場合はすぐに退避できるようにする。			○		
3	1号炉ごみ汁バッグ付近にて	ごみ汁バッグ内を確認しようと歩いていた際に	床に敷いてある工事用の敷鉄板の段差につまづき、転倒した。	工事の際は敷鉄板が床に敷いてあるので段差が多い為、足元に注意して歩行する。			○		
4	水処理室屋外にて	ドラム缶内の洗浄作業時	汚泥槽のレベル計不良により、近くにあった汚泥槽から汚泥が噴出し、被液しそうになった。	噴出被液防止の養生ネット張りと汚泥槽のレベル計点検実施。				○	
5	1号水砕ピット近くで	水砕水ブローラインが詰まった為、詰まり除去をしようとした際に	ホースバンドが緩く、ホースが抜け、熱水が身体と顔にかかった。すぐに着替えてシャワーを浴び、大事には至らなかった。	ホースバンドをしっかりと固定し、二重のホースバンドでさらに固定する。				○	
6	水処理室南側入口にて	歩行中	フィルタープレスからこぼれた液が床にあり、滑って転びそうになった。	フィルタープレスから液がこぼれても床に落ちないように溝を作るよう、改善要求を出した。				○	
7	工場内更衣室前の階段付近で	出勤時着替えの為、更衣室へ徒歩で向かっている際	工場周辺の粉じんが舞い、身体に降りかかった。	粉じんが多い場所なので、油断せず、保護メガネやマスクを着用する。			○		
8	工場からフレコン置場への道路で	フォークリフトでフレコンを搬送中に、大型トラックが停車していたので、横を通過しようとした際	大型トラックが急に動き出し、フォークリフトと接触しそうになった。すぐに停止して接触はなかった。	動くかもしれないとKYしながら走行する。		○			
9	工場内熱交換器前	熱交換器ストレーナーを交換作業中	予備のストレーナーを持ち上げた際、隣の熱交換器に当たり、置いてあったストレーナーが足の近くに倒れてけがをしそうになった。	隣のストレーナーの置き場所を、自分に当たらない位置に置き換えてから作業を行う。	○				
10	工場入口付近にて	フレコンをフォークリフトで搬送していたとき	夜間の運転だった為、道路の穴がよく見えず、フォークリフトのタイヤが段差に入り、転倒しそうになった。	穴の空いていない反対側の道路を通行する。 会社に道路の穴の補修を要請する。			○	○	
11	地下スクリーン室	水中ポンプの結線作業	作業前は常に誰かがブレーカーを下ろすので、そのときも誰かがブレーカーを下ろすと思ってしまっていた。その為、ブレーカーを切らずに作業していることに気付かず、感電の危険のある状態で作業していた。	作業者はブレーカーを切ったことを必ず目視で確認する。	○				
12	自社工場	二軸破砕機の詰まり物撤去中	力のいる作業で、手首の関節を痛めそうになった。	二軸破砕機に詰まらない作業方法を検討。 2人作業で協力しながら作業をすすめる。 使える道具を駆使し、体への負担を少なくする。	○				

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
13	自社工場	持ち込まれた廃棄木材を選別しているとき	積み重なった廃棄木材を選別していたとき、掴んだところに釘があり、刺さりそうになった(手袋なし)。	持つところは、しっかりと安全を確認し作業にあたる。 厚めのゴム手袋を使用する(インナー手袋も場合により使用)。	○				
14	自社工場	粗大ゴミ選別中	組成ごとの廃棄物を取り除いていたが、鋭利な金属片がふくらはぎをかすめ、刺さりそうになった。	足元にあるものは気付きにくいので、安全長靴を履いてふくらはぎまで守るようにする。			○		
15	自社工場	重機(油圧ショベル)を用いて、廃棄物選別、積み込み作業中	視界に入る作業員をつねに警戒していたが、ゆっくり右旋回時、真横に作業員が入り込み、ハットした。	作業前に必ず、重機作業中の危険場所に入り込まないようにする。 アームは常に高い位(作業員に接触しない高さ)で旋回する。		○			○
16	ドラフト前 ごみ箱	ごみを捨てる為、ふたを開けたとき	使用済みの検知管がそのまま捨てられていた。	使用済み検知管はポリ容器に入れて捨てるルールになっているので、改めて周知する。		○			
17	キルン前面	再生油ノズルが詰まってしまった為、点検しようとしたとき	エアーでラインパージしても内圧が残ってしまい、危ないと思った。	ドレンラインにメクラがしてあったので活かせるようにして圧を抜き、液がはねない様ウエスをまいてカブラを外した。			○		
18	事務所と電気 室間通路	通行しようとしたとき	合羽掛けの所に使用済みのタイヤバックが掛けられていた。 強風時、通行の妨げになる。	使用済みタイヤバックはすぐ廃棄する。		○	○		
19	単独ステージ	単独ドラムが終了したので、新しいドラムに交換しようとしたとき	新しいドラムのふたを開けたところ、内圧が高く、ふたから液が少量噴出してきた。 面体をしていたので顔にはかからなかったが、ヒヤッとした。	面体を必ず使用してから作業する。			○		
20	2号炉廃液タンクへ続く通路	タンクのバルブを確認しに行くとき	階段の段差につまづき、転倒しそうになった。	目印としてステッカー等を貼って注意する。				○	
21	2号炉急冷塔灰 排出コンテナ横	業務の為、2号炉内を移動していたとき	通路に置いてあったホースにつまづき、転びそうになった。	通路に物を置かないようにする。 置き場に表示を取り付ける。			○		
22	2号炉固形物 ヤード1番	シュレッダーの選別を手作業でしているとき(カテロン)	選別中、ワイヤーでカテロンが切れた。	選別用の保護具・治具の購入。				○	
23	固形物投入 シュートカメラ前	投入シュート詰まり除去の為、直接設備を移動してパージしているとき	地面の電気配線やエアチューブにひっかかり、炉内に転落する危険を感じた。 場所も狭く、開口部にかなり近づいて作業している為、本当に危険。	電気配線やエアチューブは上部を通すように移動する事にした。				○	
24	固形物No.3コン ベアヘッド部 (約20mの高 所)	コンベア点検時サルバシゴを昇降しているとき	手摺りの隙間が大きく、転落の可能性はある。	エキスパンで隙間をなくし、転落防止の措置をした。 大きな隙間がなくなったので、転落の可能性がなくなった。				○	

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
25	FHミキサー (3階フロア高所作業中)	ミキサー内の汚泥を掻き出すとき	ミキサー内の汚泥をペール缶に入れ、ロープを使ってステージ下に降ろし、コンテナに空ける作業を延々と繰り返す(約2時間)。この作業は体力を必要とし、沢山の人員が必要。 万一ペール缶昇降中にロープが切れたり、集中力が切れてペール缶を落としたりしたら、下の作業員が危険を伴い、大きな災害にも繋がりがかねない。	ミキサーステージから降ろせる用のシュートを製作し、シュートから直接コンテナに入れるようにした。 ペール缶の昇降が無くなった為、危害リスクが下がり、作業員も削減できた。				○	
26	構内ピット棟 建屋内	フォークリフトで荷の移動中	走行中、床面が油で汚れていたことに気付かずスリップし、荷くずれをおこしそうになった。	・走行する通路の清掃徹底 ・作業する前の確認強化	○		○		
27	中間処理施設	タイヤショベル後退時	オペレーターが後方に人がいることに気付かず後退し、接触しそうになった。	車両後退時、後方確認を充分してから発進させる。		○			○
28	プラント高所部	熱電対の点検時	熱電対のフランジボルトを外したときにナットを落としてしまい、下に人がいたらケガをしていた。	上下作業を行うときは、物が落ちたときの危険性を考え、シートなどを敷くなどして作業を行う。	○				
29	構内ストックヤード	現場巡回中	段積みしていたストックキューブが崩れ落ちていた。 タイミング悪く崩れる瞬間に近くに居たかと思うとゾッとしました。	ストックキューブが不安定又は、崩れかけているのを気が付いたときは、大丈夫だと思わず、「崩れるかもしれない」と考え、早急に積替えもしくはピットへ落すようにする。 また、ストックをする際にも「崩れるかもしれない」といった目線で積み込む作業にあたる。			○		
30	可燃バンカ室	搬出した後に飛散したごみを掃いているとき	床が滑りやすくなっている箇所があり、そこに足を踏み入れ、滑りそうになった。	手元、足元を確認し、慌てずに作業に当たる。 搬出作業終了後は外気を取り入れ、床面を出来るだけ乾かすよう心掛ける。	○				
31	工場敷地内	大型ユンボから降りるとき	強風の中での作業後、大型ユンボから降りる際、風に注意しながら扉を開けたが、突風が吹いて、体を持っていかれた。	強風が吹いている時、扉の開閉の際は、充分注意する。			○		○
32	自社工場内 A棟	大型ユンボにて廃棄物の山あげをしているとき	山あげ中に裾の廃棄物をすくい山頂へ持っていこうとしたところ、同僚が運転するホイールローダが同じ所をすくい上げようとしてきた。	・無線を使用している現場なので、無反応の場合、クラクション等で意思の疎通を図る(アイコンタクトを取る)。 ・大丈夫だろうは、しない!!させない!! ・急ぐ気持ちよりも安全優先を浸透させる。	○	○			○
33	A棟内	日次メンテ (破碎CV1)	滑り台の残渣をエアーを使って清掃していた際に、残渣が跳ね返り、目に入った。	エアーを使用する際は、保護具(ゴーグル)を着用する。	○				
34	C棟 葛飾ヤード	搬入車両を誘導しているとき	搬入時にトラックのタイヤで踏みつけられたベットのボルトのキャップが目の前に飛んできた。	そばに居ないようにしたほうが良い。			○		
35	D棟倉庫前にて	回転フォークリフトに乗ったとき	フォークリフトで後退したとき、前方や周りの確認は行ったが、タイヤの向きが急ハンドルを切った状態で停車していたのに気付かずバックして、フォークリフトの横に置いてあった鉄箱にぶつけそうになり、ヒヤッとしました。	今後は前方や周りの確認と共に、タイヤの向きも確認し、確実に作業したいと思う。 それと同時に乗り終えた後もタイヤの向きを真っ直ぐに戻し、停車したい。	○				

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
36	処分場敷地内	槽内清掃(吸引作業時)	吸引ホースを固定していたロープに足を引っ掛け、転倒しそうになった。	他の作業に集中して気付かなかった。 カラーコーンやバーを設置し、周囲を確認しながら、一つずつ落ち着いて作業しようと思う。	○				
37	処分場敷地内	分別作業中	足元にブラ板が2枚重なっていて、そこを歩行した際、足を滑らせ転倒しそうになった。	・ブラ板は滑りやすくなっているの 上を歩かないようにする。 ・足元をよく確認して歩くようにする。			○		
38	処分場敷地内	場内の設備点検を行っているとき	重油タンクの防油堤に設置している雨水抜きバルブが「開」のままの状態になっていた。本来は、雨水を抜いた後に「閉」にすべきところであった。「開」のままだと重油が外に漏れてしまう可能性があるため、事故につながる前に「閉」にすることが出来た。	雨水抜きバルブは常に「閉」にしておくが、防油堤に滞水を確認した場合、バルブを「開」にした後、滞水がなくなったことを確認して、バルブを再度「閉」にすることを徹底する。			○		
39	処分場敷地内	バックホーで埋立作業中	バックホーを旋回したとき、バケットを水位観測井戸に当てそうになった。	オペレーターは、作業前に埋立ヤードの構造物を確認把握し、カラーコーン等の目印を設置して、構造物を破損させない措置をとってから作業を開始することを徹底する。	○				○
40	処分場敷地内	搬入車両誘導時	ステージ上に廃棄物が落ちていて、足を滑らせ、転倒しそうになった。	ステージ上をほうき等で常に清掃しておくこと。 また、ステージ上は足元をよく見ながら歩くことを徹底する。			○		
41	処分場敷地内	ブロワーを使用し、道路を清掃中	背後から搬入車両がバックしてきた際、ブロワーのエンジン音で気付かず、ダンプと接触しそうになった。	ブロワーを使用しての作業は、搬入終了後に行うことを徹底する。	○				